

科目名	財政学	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			経済学科	□必修 ■選択	
			法律学科	□必修 ■選択	
英文表記	Public Finance	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年		
		開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中		
ふりがな	きはら たかし	実務家教員担当科目	○	修得単位	2単位
担当者名	木原 隆司	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	財政学は応用経済学の一分野です。ミクロ経済学やマクロ経済学などを用いて、租税・国債・財政政策（Fiscal Policy）の理論と実証を学ぶとともに、地方財政や公会計にも言及し、今後のあるべき財政を展望します。				
到達目標	租税理論や財政政策（Fiscal Policy）のミクロ経済学・マクロ経済学的説明を理解するとともに、応用できるようになります。また、国債、地方財政、公会計等に関する制度や理論を理解し検討できるようになります。				
授業概要	テキストに沿って解説していきます。教員の財務省等の中央官庁での経験等を交えることにより、現実的で分かりやすい講義に努めます。				
授業計画					
第1回	イントロダクション				
第2回	租税の理論Ⅰ（テキスト第6章1・2：消費課税・所得課税）				
第3回	租税の理論Ⅱ（第6章3・4・5：最適課税論・包括的所得税・支出税・法人税）				
第4回	国債Ⅰ（第8章1・2：公債制度・国債管理政策）				
第5回	国債Ⅱ（第8章3・4・5：公債の中立命題・財政の持続可能性・課税平準化政策）				
第6回	地方財政Ⅰ（第9章1・2・3：国と地方・地方財政の歳入・歳出）				
第7回	地方財政Ⅱ（第9章4・5：地方公共団体の財政運営・地方分権）				
第8回	公会計・世代会計（第10章：国・地方の公会計・世代会計）				
第9回	財政政策Ⅰ（第11章1・2：新古典派・ケインジアン、政府の財政政策）				
第10回	財政政策Ⅱ（第11章3：家計の行動）				
第11回	財政政策Ⅲ（第11章4：企業の行動）				
第12回	財政政策Ⅳ（第11章5：労働・資本・財・貨幣市場の均衡、金融政策）				
第13回	財政政策Ⅴ（第11章6：財政政策の効果）				
第14回	財政の今後（第12章：財政・税制改革、社会保障改革）				
第15回	講義のまとめ				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	1. 講義のPPTを事前にDownloadして、良く読んだ上で、講義に臨んでください（2時間程度）。 2. 講義後は、「重要語句」とともに、論理を理解するように復習してください（2時間程度）。				
履修条件 受講のルール	テキストに沿って講義を進めるので、テキストを購入してください。				
テキスト	土居丈朗（2021）『入門財政学 第2版』（日本評論社）				
参考文献・資料	森田稔（2022）『図説 日本の財政 令和4年度版』（財経詳報社）				
成績評価の方法	レポート等講義への貢献（40%）・定期試験（60%）を目安として、総合的に評価します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。				
オフィスアワ	毎週火曜日・木曜日 10：40～12：10				

ー	※これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	担当教員は、財務省・外務省・経済企画庁等の中央官庁の参事官・部長・課長等、税務署長や国税不服審判所長、国際機関職員などの職務を通じて、財政・税制に深く関わってきました。この経験を学生の皆さんに伝えたいと思います。
学生へのメッセージ	経済学の観点からは、「財政学」(Theory of Public Finance, Economics of Government)はマクロ経済学やミクロ経済学の「応用経済学」です。マクロ経済学・ミクロ経済学を復習して、財政の経済学的裏付けを考えるようにしてください。